

歴史的分野 年間指導計画・観点別評価規準表

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
序章						
序章	年代や時代区分の表し方 【課題学習】歴史人物Q&Aカード をつくろう 地域調査に出かけてみよう！	6	○歴史を学ぶ意欲を高め、その意義について考える。 ○年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解する。 ○小学校で学習した人物について調べる活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付く。 ○身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりのなかでわが国の歴史を理解する。	○身近な地域の歴史について、様々な資料を収集し、適切な情報を選択して、図表なども用いてまとめている。 ○小学校で学習してきた歴史上の人物の活躍した時代とその事績について理解している。	○歴史には様々な時代区分の仕方があることについて考察し、歴史モノサシなどを活用して、適切に表現している。	○身近な地域の歴史や歴史資料について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
第1章 原始と古代の日本						
第1章 原始と 古代の 日本	海洋国家・日本の歩み①（縄文時代の丸木舟） 歴史絵巻～原始・古代～ 原始・古代の世界へようこそ！	2	○縄文時代の丸木舟が果たした役割について考察する。 ○原始・古代におけるわが国の歴史の大きな流れを大観する。 ○原始・古代の特色について、課題意識をもって究明し、とらえる。	○原始・古代という時代の大きな流れを、その特色とともにとらえ、概要を理解している。 ○「駒鏡行幸絵巻」から、平安時代の貴族の邸宅の特徴について、読み取ったりまとめたりしている。	○「駒鏡行幸絵巻」から、平安時代の貴族の暮らしがどのようなものだったのか、多面的・多角的に考察し、その考察を適切に表現している。	○平安時代の貴族について関心をもち、貴族の生活や文化を意欲的に調べようとしている。
	第1節 日本のあけぼのと世界の文明		○人類の出現、文明のおこりから各地に国家が生まれていった経緯を把握する。 ○わが国の成り立ちとその発展を東アジア諸国との関連からとらえ、当時の人々の考え方に気付く。	○世界各地で文明や国家がおこったようすを理解するとともに、わが国独自の文化に大陸文化が加わり、次第に国の形が整っていった経緯を理解している。 ○古代のわが国のようすについて、様々な資料から調べ、政治・社会・文化などに分けてその特色をまとめている。	○わが国の形成と発展に大陸の文化が果たした役割について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○古代の文明やわが国の成立について関心をもち、意欲的に調べようとしている。 ○縄文時代の自然観や宗教観について、現代の日本人にどれほど受け継がれているのか、意欲的に調べて考察しようとしている。
	1 日本列島ができたころの人々	1	○人類が出現し、狩猟・採集の生活をしながら世界に広がっていったようすについて理解する。 ○日本列島ができた経緯や人々の暮らしのようすについて理解する。	○旧石器時代の特色について、当時の遺物などとともに理解している。	○人類の祖先といわれる猿人の発生から、原人、新人へと進化を遂げた過程を考察し、適切に表現している。	○人類や日本人の祖先に対する関心をもち、遺跡や出土品を通して、意欲的に調べようとしている。
	2 豊かな自然と縄文文化	2	○縄文時代の特色を土器や住居、貝塚などの遺物とともに理解する。 ○豊かな自然に育まれた長い年月が、現代日本人の文化や感性にもつながっていることに気付く。	○縄文時代の人々の生活のようすや縄文土器や土偶などの遺物の特徴をとらえ、縄文時代が日本文化の基盤をつくったことを理解している。	○縄文時代の人々の衣・食・住について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○縄文時代の人々の暮らしと文化に関心をもち、遺跡や出土品について、意欲的に調べようとしている。
	3 文明のおこりと中国の古代文明	1	○古代文明が大河のほとりにおこった理由について考える。 ○古代文明の特色を、文字や建築物を通して理解する。	○世界の古代文明が、農耕・牧畜の発達を基盤として成立したことを理解し、各文明の特色について様々な資料から読み取ったりまとめたりしている。	○文明発生の要因を、農耕・牧畜の発達、国家の成立と関連付けて考察し、適切に表現している。	○世界の古代文明に関わる遺跡や文字などに関心をもち、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 原始と古代の日本	4 稲作・弥生文化と邪馬台国	1	○弥生時代に本格化した米づくりが人々の定住・集団化を促し、ムラがつくれ、やがてクニへと発展していったことに気付く。 ○弥生文化の特色を金属器や土器などの遺物から考える。	○遺跡や遺物などを手がかりに、弥生時代の人々の生活のようすについて調べ、縄文時代と対比しながらまとめている。 ○稲作の普及によって人口が増えてムラやクニが形成されていった過程や、中国の書物に記された弥生時代のわが国のようすについて理解している。	○弥生文化の特色を、具体的な遺跡や出土品から多面的・多角的に考察している。 ○中国を中心とする当時の東アジアと日本の国際関係について、遺物や文献をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○弥生時代の人々の暮らしと文化に関心をもち、遺跡や出土品について、意欲的に調べようとしている。 ○邪馬台国について関心をもち、中国の書物の記述などをもとに、意欲的に調べようとしている。
	5 古墳の広まりと大和朝廷	2	○古墳について理解し、その広がりから各地に有力豪族が誕生していったことに気付く。 ○豪族の連合政権である大和朝廷が成立し、国土統一に向かう機運や制度が整っていったことを理解する。	○古墳や埴輪など古墳時代の遺物について様々な資料を活用して調べ、古墳文化の特色を整理して理解している。 ○大和朝廷が成立していったようすや、大王が豪族を統治するしくみであった氏姓制度の内容を理解している。	○古墳の広がりや巨大化と、大和朝廷による統一国家の成立を結び付けて考察し、具体的な資料をもとに表現している。	○古墳や埴輪、鉄剣、銅鏡などに関心をもち、その特徴や傾向などについて意欲的に調べようとしている。
	6 大和朝廷と東アジア	1	○日本と中国・朝鮮半島の関係や、その移り変わりについて資料を通して理解する。 ○大陸や朝鮮半島から渡来した人々がわが国にもたらした技術や文化について考える。	○高句麗の好太王（広開土王）碑などの文字資料を読み取り、当時の東アジアの情勢を理解している。 ○帰化人（渡来人）がわが国にもたらした仏教や儒教、漢字などが、日本の文化に大きな影響を与えたことを理解している。	○当時の大和朝廷と東アジアの国際関係について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○帰化人（渡来人）がわが国にもたらした様々な大陸の文化について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	7 世界の宗教と日本	2	○宗教がなぜおこり、世界にはどのような宗教があるのかについて理解する。 ○宗教がわが国の歴史や身近な生活にどのように関わっているのかについて考える。	○世界の三大宗教について、様々な資料を活用して、その特色や違いなどをわかりやすく表にまとめている。 ○日本人の生活のなかで、宗教がどのような役割をになっているのか理解している。	○世界の三大宗教について、その特色を地域性や歴史と関連付けて考察している。	○世界の宗教に関心をもち、それぞれの特色や信者の分布などについて意欲的に調べようとしている。
	第2節 「日本」の国の成り立ち		○大陸の文物を取り入れながら、わが国が律令国家として体制を整え、独自の文化を育てていったようすを理解する。	○わが国の古代の文化が、大陸の文物を受け入れながら、独自の気質や風土に合わせ発展したものであることを、様々な資料から読み取っている。 ○律令国家となったわが国の政治が、次第に貴族中心のものへと変化していくようすを、国内外の動きを踏まえ理解している。	○わが国の律令政治がどのように形成され、変容していったのかを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○飛鳥・奈良・平安時代の文化や史跡に関心をもち、意欲的に調べようとしている。 ○わが国の神話について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	8 聖徳太子の国づくり	1	○聖徳太子の立場やその政治について調べ、太子が何をめざしていたかを考える。 ○東アジアにおける日本の立場を踏まえ、太子が中国とどのような関係を結ぼうとしたかを理解する。	○「十七条の憲法」の資料を読み、聖徳太子のめざした政治や思想、太子が実施した政策の内容を理解している。 ○聖徳太子の政治と外交が、その後のわが国の方向性に大きな影響を与えたことを理解している。	○変動する東アジア情勢のなかで、聖徳太子が国づくりにどのように関わったのか、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○聖徳太子の人物像やその政治、外交について関心をもち、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 原始と古代の日本	9 大化の改新と激動の東アジア	1	○皇族や豪族の間の勢力争いから大化の改新が起こり、天皇を中心とする国づくりが進んでいったことを理解する。 ○白村江の敗戦により危機感を高めたわが国が、国家体制を固めていったことを理解する。	○大化の改新によって、天皇を中心とする国づくりをめざして実施された諸政策を理解している。 ○「白村江の戦い」「大宰府の守り」などの資料から、当時の日本の対外政策の方向性を読み取っている。	○激動する東アジア情勢のなか、天皇を中心とした国づくりが進められたことを、年号や国号と関連付けて考察し、適切に表現している。	○大宰府の位置や役割について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	10 飛鳥文化・白鳳文化と遣唐使	1	○飛鳥・白鳳時代の建築物や仏像を概観し、その特色を理解する。 ○遣唐使が派遣された理由や、それがわが国にもたらした影響の大きさについて考える。	○写真資料を見て、飛鳥・白鳳文化を代表する文化遺産にはどのようなものがあつたのかを、その特徴とともに指摘することができる。 ○飛鳥文化と白鳳文化のそれぞれの特色を理解している。	○遣唐使が派遣された目的とその影響について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○法隆寺や伊勢神宮、薬師寺など、この時代に造られた神社寺院に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	11 大宝律令と平城京	1	○大宝律令により、わが国が律令国家として整備されていったようすに気付く。 ○班田収授法のしくみについてまとめ、奈良時代の人々の暮らしを理解する。	○古代日本の律令体制について、様々な資料を活用して、その諸制度の概要を理解している。	○奈良時代の人々の暮らしについて、土地・税制などの面から、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○平城京の大きさやつくりについて関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	12 天平文化	2	○律令国家体制が整備されるなかで、歴史書や歌集づくりが国家的事業として取り組まれたことを理解する。 ○唐との交流や仏教の発展が、天平文化として結実した経緯を理解するとともに、すぐれた作品や建築を鑑賞する。	○鑑真の事績に関する様々な資料から、彼が果たした役割について、読み取ったりまとめたりしている。 ○天平文化が、唐の文化の影響を受けた国際色豊かな仏教文化であったことを理解している。	○天平文化の特色について、代表的な人物や文化遺産などを、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○『万葉集』や日本の神話に関心をもち、その代表的な作品やあらすじについて、意欲的に調べようとしている。
	13 平安京と摂関政治	1	○平安京に都が移された理由を考えるとともに、桓武天皇がめざした政治改革について理解する。 ○藤原氏の台頭により、都や地方の政治がどのように変容したのかについて具体的に理解する。	○藤原氏による摂関政治について、系図を活用して、その特徴をとらえている。 ○班田収授法の行きづまりや荘園制の展開など地方政治の変化を理解している。	○都を平安京へ移した理由について、天皇の政治改革の方針を踏まえ、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○貴族の暮らしについて関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	14 新しい仏教と国風文化	2	○平安初期の新しい仏教や、国風文化の特色を理解する。 ○現在につながるかな文字や文学作品から日本独自の文化が発達した理由を考える。	○国風文化の特色や当時の仏教の新しい潮流について理解している。 ○かな文字の発達について、様々な資料から調べ、かな文字が日本の文化に与えた影響を理解している。	○国風文化の隆盛について、当時の東アジア情勢を踏まえ、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○最澄や空海、清少納言や紫式部など、この時代の文化を代表する人物に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	学習のまとめ①	1				
第2章 中世の日本						
第2章 中世の日本	海洋国家・日本の歩み②（遣明船） 歴史絵巻～中世～ 中世の世界へようこそ！	2	○中世において、遣明船が果たした役割について考察する。 ○中世におけるわが国の歴史の大きな流れを大観する。 ○中世という時代の特色について、課題意識をもって究明し、とらえることができる。	○中世という時代の大きな流れを、その特色とともにとらえ、概要を理解している。 ○「一遍上人絵伝」から、武士の館の特徴について読み取ったりまとめたりしている。	○「一遍上人絵伝」から、武士の暮らしがどのようなものだったのか、多面的・多角的に考察し、その考察を適切に表現している。	○武士の誕生に関心をもち、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第2章 中世の日本	第1節 武家政治の成立		○武士が登場し力を伸ばした理由を考察するとともに、その後の武家社会の基盤がこの時代に築かれたことを理解する。	○武家社会のようすやその文化の特徴について、様々な資料を活用して読み取っている。 ○わが国においてこの後も続く、朝廷と幕府の二つの政府が並存するというかたちがこの時代に形成されたことを、両者の力関係の変化を踏まえて理解している。	○土地の開発・所有という観点から、武士がおこり、その勢力を拡大させていった理由について考察している。	○源平合戦や承久の乱、元寇などに関心をもち、武力をもつ集団が政治の実権をにぎっていったようすを意欲的に調べようとしている。
	15 武士の登場と院政	1	○武士の登場と武士団の形成についてとらえるとともに、地方武士の反乱などを通し、その勢力が拡大したことを理解する。 ○院政のおこりと源氏・平氏の台頭、および平氏による政権樹立の経緯について理解する。	○武士の登場と勢力拡大について、土地の開発・所有と関連させて理解している。 ○院政の展開や平氏の台頭について、様々な資料を活用して整理し、まとめている。	○武士が生まれた経緯や、次第に力を伸ばしていった理由について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○平清盛に関心をもち、清盛が武士として初めて政権をにぎった経緯を意欲的に調べようとしている。
	16 武士の世の到来と鎌倉幕府	1	○源氏による平氏追討の動きと平氏の滅亡に至るまでの流れを時系列に沿って把握する。 ○武家政権の確立に向けて頼朝が行った諸政策を理解するとともに、幕府の性格や特徴について考える。	○源頼朝が、源平の争乱のなかで地方の支配を強めていった経過や、鎌倉幕府を開いて武士による統治を確立した意味を理解している。 ○鎌倉に幕府が成立した理由について、様々な資料を活用して、読み取ったりまとめたりしている。	○鎌倉幕府の中央と地方のしくみについて、具体的な事例をもとに考察している。	○源頼朝に関心をもち、その人物像や事績について、意欲的に調べようとしている。
	17 幕府政治の展開と人々の暮らし	1	○北条氏を中心とする幕府政治の展開に注目するとともに、承久の乱の原因や結果、その影響を理解する。 ○封建制度を基盤とした武士の暮らしや、農業技術の進歩を背景とした社会の変化についてとらえる。	○「源氏と北条氏の系図」などの資料を活用して、北条氏が幕府の権力をにぎっていったことを読み取っている。 ○御恩と奉公という将軍と御家人の主従関係および御成敗式目の内容と意義について理解している。	○承久の乱が起こった経緯とその影響について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○鎌倉時代の武士や農民の暮らしに関心をもち、その社会のようすとともに、意欲的に調べようとしている。
	18 新しい仏教と武士の文化	1	○多くの仏教宗派が誕生したことを当時の社会情勢と関連付けてとらえ、それぞれの宗派の特色を理解する。 ○鎌倉時代の代表的な文学作品や建築・美術作品を知り、その特色をとらえる。	○鎌倉時代の文化に関する様々な資料から、その特色をとらえている。 ○鎌倉時代の代表的な文学作品や建築、美術作品を知り、その特色を理解している。	○多くの仏教宗派が誕生したことを、当時の社会情勢と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○『平家物語』『新古今和歌集』など、この時代に生まれた文学に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	19 元寇と鎌倉幕府のおとろえ	2	○モンゴル帝国および元の成立について、そのあらましをとらえる。 ○元寇の原因や結果とともに、元寇に対処した幕府や御家人の動向を把握する。また、元寇の影響が、幕府滅亡の原因の一つとなったことを理解する。	○元寇に関する様々な資料から、元がわが国を攻撃した理由について、当時のアジア情勢と関連づけて読み取っている。 ○元寇が鎌倉幕府の政治と社会に与えた影響の大きさについて理解している。	○幕府と御家人が元軍にどのように対処し、わが国の独立を保ったのか、また、その後なぜ幕府がおとろえたのかという理由について考察している。	○元寇の原因や結果に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	第2節 武家政治の動き		○室町幕府の成立とそのおとろえ、戦国時代へと向かう時代の変化について理解する。 ○当時の東アジアの国々の動向について理解する。	○武家による政治が様々な展開して力を強めていく時代であったことを、資料を活用して読み取っている。 ○民衆の動きが盛んになってきた時代の動向を理解している。 ○周辺の国々の変化や、それらがわが国に及ぼした影響について理解している。	○自治のしくみが生まれ、都市に新しい産業が見られるようになったこの時代の社会の変化を、政治と関連付けて考察している。	○建武の新政に伴う争乱や、応仁の乱に関心をもち、それまで政治を行ってきた幕府の力がなぜ弱まったのか、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第2章 中世の日本	20 建武の新政と南北朝の動乱	1	○建武の新政が天皇中心の政治をめざしたものだっ たことを理解する。 ○室町幕府は守護大名による連合体であったことを、 守護大名の特徴から読み取る。	○鎌倉幕府の滅亡から建武の新政の失敗の経過 が、南北朝の争乱につながったことを理解してい る。 ○南北朝の争乱の中で成立した幕府では、守護大 名の勢力が強かったことを様々な資料から読み取 っている。	○建武の新政の理念やその失敗の理由、さらに足 利氏の幕府の性格について考察し、その考察を適 切に表現している。	○鎌倉幕府の滅亡から建武の新政、足利氏の幕府 成立までの動きに関心を持ち、意欲的に調べよう としている。
	21 室町幕府と東アジア	1	○足利義満により室町幕府の体制が整えられたこと を理解する。 ○日本との交流を通して、東アジアの国際関係につ いて理解する。	○室町時代のわが国と明や朝鮮国との関係、およ び東アジア情勢について、様々な資料を読み取り、 政治面・経済面など多角的に理解している。	○足利義満の政治・外交について多面的・多角的 に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○この時代の琉球や蝦夷地について関心を持ち、 中継貿易やアイヌの文化などを意欲的に調べよう としている。
	22 応仁の乱と戦国大名	1	○応仁の乱の内容と、応仁の乱をきっかけに全国に広 がった社会の変化を理解する。 ○応仁の乱以降、各地に割拠した戦国大名が城下町を 中心に領国経営に力を注いだことを理解する。	○応仁の乱の経過と合わせて、乱によって下剋上 の風潮が生まれ、日本が戦国時代の社会になって いったことを理解している。 ○主な戦国大名とその領国支配について、守護大 名と比較しながら資料を調べ、読み取ったりまと めたりしている。	○応仁の乱以降の大名が、どのような意識を持ち、 どのような政策を行ったのか、守護大名から戦国 大名への変化や都市・農村の社会変化などを踏ま えて、多面的・多角的に考察している。	○戦国大名に関心を持ち、それまでの守護大名と の違いなどについて、意欲的に調べようとしてい る。
	23 産業の発達と広がる自治の動き	2	○技術の進展により農業や手工業が発達したことが、 人々の生活の向上や国内の流通網の発展をもたら したことを理解する。 ○政治や経済の変化を背景に、農村や都市で有力な住 民による自治が行われたことを理解する。	○絵画などの資料から、農村や都市のようす、商 品の流通などを読み取り、社会がどのように変化 していったのかをまとめている。 ○農村や都市で形成されていった自治のしくみに ついて、名主、庄屋、町衆といった有力者の存在 を踏まえて、理解している。	○農業技術の進歩や手工業、商業、交通の発達に よって社会が豊かになり、農村や都市では自治が 広がっていったという動向について考察してい る。	○室町時代の農村や都市の変化に関心を持ち、意 欲的に調べようとしている。
	24 室町時代の文化	1	○室町時代の絵画や建築には禅宗の影響が及んでい たことを理解する。 ○室町文化が現代の生活に及ぼした影響について考 える。	○室町時代の文化の特色を、様々な資料から読み 取るとともに、北山文化と東山文化の違いにつ いて調べ、わかりやすくまとめている。 ○室町時代に広まった文化が、今日の日本人の生 活文化にも大きな影響を及ぼしていることを、具 体例とともに理解している。	○室町時代の文化の特色を、建築、芸能、絵画、 文学などにより多面的・多角的に考察している。	○戦乱を逃れた都の公家や僧などによって、地方 にもたらされた文化について関心を持ち、意欲的 に調べようとしている。
	学習のまとめ②	1				

章	主な学習内容	担当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3章 近世の日本						
第3章 近世の日本	海洋国家・日本の歩み③（朱印船） 歴史絵巻～近世～ 近世の世界へようこそ！	2	○近世において朱印船が果たした役割について考察する。 ○近世におけるわが国の歴史の大きな流れを大観する。 ○近世という時代の特色について、課題意識をもって究明し、とらえることができる。	○近世という時代の大きな流れを、その特色とともにとらえ、概要を理解している。 ○「江戸図屏風」から、江戸の町の特色について読み取ったりまとめたりしている。	○「江戸図屏風」から、当時の人々の暮らしがどのようなものだったのか、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○江戸の町づくりに関心を持ち、いつごろから町づくりが始まったのかなど、意欲的に調べようとしている。
	第1節 ヨーロッパとの出会い		○大航海時代をもたらした歴史的背景を知るとともに、ヨーロッパの文物がわが国にどのような影響をもたらしたのかを理解する。	○ヨーロッパ人により世界が一つに結び付けられていき、わが国にもその影響が及んだことについて、様々な資料を調べ、読み取ったりまとめたりしている。 ○わが国がヨーロッパ文明と出合った経緯、およびその影響について理解している。	○ヨーロッパからもたらされた文物が、わが国にどのような影響を及ぼしたのかを考察している。	○コロンブスやマゼランなどの探検家、また、ザビエルなどの宣教師に関心を持ち、その生き方などから、なぜ彼らが海外に向かったのかを意欲的に調べようとしている。
	25 ヨーロッパ人の世界進出	2	○ヨーロッパ人がどのような目的で新航路を開き、また、世界にどのような影響を与えたかを考える。 ○ルネサンスや宗教改革など、ヨーロッパの動きについて理解する。	○大航海時代について、イスラム勢力やイスラム文化の隆盛が背景となって大航海時代が到来したことを理解するとともに、ヨーロッパ人の世界進出が世界にどのような影響を与えたのか、地図などの資料を活用してまとめている。	○ポルトガル・スペインの世界進出とカトリック教会（イエズス会）による布教活動との密接な結び付きについて考察している。	○大航海時代の探検家に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
	26 ヨーロッパ人の来航	1	○ヨーロッパから伝来した鉄砲やキリスト教が急速に広がっていった理由を考える。 ○南蛮貿易を中心とする日本とヨーロッパの交流について理解する。	○鉄砲やキリスト教などの南蛮文化がわが国に渡来して広まっていったようすと、その影響を理解している。	○南蛮貿易とキリスト教の布教活動が何を目的として行われていたのか、その背景について考察している。	○鉄砲の伝来に関心を持ち、新しい武器がわが国にもたらした影響について、意欲的に調べようとしている。
	第2節 信長・秀吉の全国統一		○織田信長・豊臣秀吉による統一事業の概要を理解するとともに、桃山文化の特色をつかむ。	○信長・秀吉の統一事業のあらまし、およびこの時代の文化の特色について理解している。 ○朝鮮出兵の理由と国内外に与えた影響について理解している。 ○安土・桃山時代の文化の特色を、様々な資料から読み取りまとめている。	○戦国時代の争乱から江戸時代の安定へと向かう時代の架け橋として信長と秀吉が果たした役割について考察している。	○信長・秀吉の統一事業に関心を持ち、両者の共通点や相違点について、意欲的に調べようとしている。
	27 織田信長と豊臣秀吉の全国統一	1	○戦国大名のなかで織田信長・豊臣秀吉が全国統一に成功した理由を考える。 ○信長・秀吉が全国統一を完成させるためどのような政策をとったのかを理解する。	○信長や秀吉が進めた全国統一の経過と彼らが行った政策の内容について理解している。	○信長が行った政策が日本の中世社会をどのように変えていったのか、様々な資料を活用して考察している。	○信長と秀吉の人物像や事績に関心を持ち、両者の違いなどについて、意欲的に調べようとしている。
	28 豊臣秀吉の政治と外交	1	○太閤検地と刀狩が日本の社会をどのように変えていったかについて理解する。 ○秀吉が朝鮮出兵を行った理由をスペインやイエズス会の動きと関連付けて考える。	○太閤検地や刀狩など秀吉の全国統治政策の内容を理解するとともに、それらの政策によって日本の近世社会が整っていったことを理解している。	○バテレン追放令や朝鮮出兵などの秀吉の対外政策について、対ヨーロッパ・対東アジアなどの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○秀吉の行った検地・刀狩について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当授業時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3章 近世の日本	29 雄大で豪華な桃山文化	2	○桃山文化の特色を全国統一に向かう時代の動向と関連して理解する。 ○ヨーロッパ人によってもたらされた文化の広がりやその影響について理解する。	○桃山文化が大名の権力と大商人の富を基盤とした雄大で豪華な文化だったことを理解している。	○茶の湯や生け花が流行した背景と理由について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○安土城、大阪城、姫路城など城郭に対する関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	第3節 江戸幕府の政治		○およそ 260 年にわたる長期政権となった江戸幕府の基礎が、どのように築かれたか理解する。	○幕藩体制、鎖国、身分制度という江戸幕府を支えた主要な政策について理解している。 ○幕府の権力と体制がどのように整えられていったのか、様々な資料を調べて整理した結果をまとめている。	○幕府が、自らの支配をおびやかす可能性をもつ大名・朝廷・外国・農民などの力を、どのようにして奪っていったのかを考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○江戸時代に関心をもち、自分の抱く時代のイメージと実際の違いについて、意欲的に調べようとしている。
	30 江戸幕府の成立	1	○江戸幕府がどのようにして成立し、その基礎がどう固められたのかについて理解する。 ○敵対する勢力に対し、幕府がどのような政策を行ったのかを考察する。	○江戸幕府の成立とその政治体制について、概要を理解している。 ○地図・文字資料から幕府の大名統制の意図を読み取り、理解している。	○江戸時代が長く続いた理由を、大名の配置や武家諸法度、参勤交代などによる大名統制策と関連付けて考察している。	○徳川家康の事績や江戸幕府のしくみ・制度について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	31 「鎖国」への道	1	○朱印船貿易の時代から「鎖国」に向かう時代の流れを理解する。 ○幕府が貿易による利益を犠牲にしてまでもキリスト教の広がりを防ごうとした理由について考察する。	○幕府の対外政策について、初期の貿易奨励から鎖国への転換の経過を、対キリスト教政策との関連を踏まえて理解している。	○幕府が実施した貿易の管理強化と禁教政策を、当時の国際情勢などとともに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○朱印船貿易により、東南アジア各地に誕生した日本町について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	32 「鎖国」の時代に開かれていた窓口	1	○国際関係の変化を踏まえ、江戸時代の対外関係がどのような形で結ばれていたか理解する。 ○「鎖国」とよばれる体制が日本にどのような影響を及ぼしたのか考える。	○江戸時代の海外との交流について、その窓口であった「4つの口」を手がかりに、対象となった地域や交流内容を理解している。	○当時の北海道と沖縄のようす、および幕府との関係について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○「鎖国」体制下でのわが国の交易活動に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	33 身分制度の確立	1	○江戸時代の身分制度と、それぞれの身分の役割について理解する。 ○武士・百姓・町人とは別に、差別されていた人々がいたことに気付く。	○江戸時代の社会が身分制社会であることを踏まえながら各身分の性格を整理し、人々がそれぞれの立場で社会に対する役割を果たしていたことを理解している。	○江戸時代の社会において、人々が武士・百姓・町人などの身分に分けられていた理由について考察している。	○江戸時代の身分制度に関心をもち、その実態を意欲的に調べようとしている。
	第4節 産業・交通の発達と町人文化		○平和で安定した時代に支えられ、人々の生活や社会が発展・充実期を迎えたことを産業や文化、都市などの発達を通して理解する。	○社会の安定とともに、人々の生活にも発展と成熟が見られるようになり、文化や教育の発達につながったことを理解している。 ○江戸時代に形成された社会や文化について、様々な資料を活用して考察し、その結果をまとめている。	○社会の安定が産業・交通の発達、町人文化の形成などにつながったことについて考察している。	○江戸時代の人々の生活に関心をもち、現代との比較に立って、意欲的に調べようとしている。
	34 綱吉の文治政治と元禄文化	1	○幕府がそれまでの武断政治から、学問を前面に押し出した文治政治へと方針転換した理由を考える。 ○文学や美術作品を通して、元禄文化の特色を理解する。	○徳川綱吉や新井白石らによる文治政治の下で、学問や文化が発達したことを理解している。 ○江戸初期や元禄期の文化について、代表的な人物や作品を整理し、その特色をとらえている。	○幕府がこれまでの武断政治から文治政治へと方針を転換したことについて、時代の変化と結び付けて考察している。	○生類憐みの令について関心をもち、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3章 近世の日本	35 新田の開発と産業・交通の発達	2	○農業の進歩が他の産業の進歩を促し、各地で特色ある都市や生産物が生まれていったことを理解する。 ○産業・交通の発達により、町人の力が次第に大きくなっていったことを理解する。	○江戸時代の都市や産業が、陸上・水上の交通の発達に合わせて、発達していったことを理解している。 ○江戸時代に生まれた特産品について、地図資料などを活用して地域の特色などと関連させながら、整理している。	○社会の安定が農業生産の増大をもたらし、手工業・商業の発達、交通網の整備などにつながっていったことについて考察している。	○当時の人々の年中行事に関心をもち、現代に受け継がれているものなどについて、意欲的に調べようとしている。
	36 藩校と寺子屋	1	○藩校や寺子屋が普及していった理由、およびその実態について理解する。 ○この時代の高い教育水準が、その後の歴史にどのようなつながりかについて考える。	○江戸時代の藩校・寺子屋が担っていた役割を整理し、それらによって江戸時代に教育が広く普及していたことを、地図やグラフなどの資料を活用して理解している。	○藩校と寺子屋がそれぞれ何を目的とし、誰を対象としてつくられていたのか考察している。	○江戸時代の教育について関心をもち、その教育内容について、意欲的に調べようとしている。
	第5節 幕府政治の改革		○幕府や大名の財政が行きづまった理由をさぐるとともに、どのような改革が行われたのか、その結果とともに理解する。	○三大改革や田沼の政治がどのように行われ、どのような結果になったのかを表にまとめて理解している。 ○幕府が直面した内外の課題にはどのようなものがあったのか、様々な資料を調べて、その結果をまとめている。	○幕府の改革のほとんどが失敗に終わった理由について、貨幣経済の発達を中心とした社会の変化という観点から考察している。	○幕政改革にたずさわった人物に関心をもち、彼らの考え方や政策について、意欲的に調べようとしている。
	37 社会の変化と享保の改革	1	○商業の発達と貨幣経済の広がりが、米に依拠する武家政治を揺るがす原因になったことを理解する。 ○享保の改革が必要とされた理由と、改革のあらましについて理解する。	○享保の改革について、改革の背景となった経済・社会の変化とともに、改革の主な内容とその成果について理解している。	○貨幣経済の発達がなぜ幕府の財政窮乏化につながったのかについて、考察している。	○この時代に繁盛した両替商や呉服屋のなかに、三井、鴻池、越後屋など、今日に至るまで繁栄している企業があることに関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	38 田沼の政治と寛政の改革	1	○田沼意次は発展する商人の力を利用して幕府財政の立て直しを図ろうとしたことを理解する。 ○松平定信は寛政の改革により政治の引き締めを図ったが、時代の流れに合わず、失敗したことを理解する。	○田沼の政治と寛政の改革について、当時の社会の状況をおさえた上で、両者を比較して整理し、それらの内容を理解している。	○田沼意次の政治と松平定信の寛政の改革の経過について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○天明の飢饉について関心をもち、どのようなものだったのか、意欲的に調べようとしている。
	39 欧米諸国の接近	1	○わが国の周辺に外国船が出没するようになった理由を国際情勢の変化を踏まえて理解する。 ○外国船に対する幕府の対策を異国船打払令や北方探検を通して考える。	○「おもな外国船の接近」などの資料から、諸外国の日本に対する行動と幕府の対応を読み取り、それらを整理して理解している。	○外国船が日本に接近するようになった理由について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○このころ北方探検が何度も行われたことに関心をもち、その目的や成果について、意欲的に調べようとしている。
	40 天保の改革と諸藩の改革	1	○大塩平八郎の乱が起きた原因と社会の状況について理解する。 ○天保の改革が失敗に終わった理由と、雄藩の改革が成功した理由を考える。	○幕府や諸藩の改革について、資料などをもとに改革の内容と結果を整理し、改革に成功した藩が国政への影響力を強めていったことを理解している。	○享保の改革、寛政の改革、天保の改革について、その内容を整理し、比較しながら考察している。	○大塩平八郎の乱に関心をもち、なぜ幕府に大きな動揺を与えたのかについて、意欲的に調べようとしている。
	41 江戸の町人文化	2	○化政文化の特色を社会の変化と関連付けて理解する。 ○現代に伝わる江戸文化について考察する。	○江戸を中心に栄えた化政文化の特色を、代表的作品や人物とともに理解している。	○このころ多くの本が出版され、貸本屋などが流行したことを、当時の人々の識字率の高さと結び付けて考察している。	○江戸の町人文化に関心をもち、文学や絵画などを意欲的に鑑賞しようとしている。

章	主な学習内容	配当授業時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3章 近世の日本	42 新しい学問と思想の動き	2	○化政文化が栄えた理由を政治や社会の変化を踏まえて理解する。 ○蘭学と国学という相反する方向性をもつ二つの学問が、のちに尊王攘夷運動を支える柱となった経緯について考える。	○町人文化の発展や教育の普及を背景に、様々な学問や思想が発展したことを、それらの内容や特色、中心人物などととらえ理解している。	○新しくおこった国学や蘭学が、どのような時代背景のなかで生まれ、その歴史的役割を果たしたのかについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○江戸時代の学問、思想、技術に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
	学習のまとめ③	1				
第4章 近代の日本と世界						
第4章 近代の日本と世界	海洋国家・日本の歩み④（咸臨丸） 歴史絵巻～近代①～ 近代①の世界へようこそ！	2	○咸臨丸の航海の歴史的意義について考察する。 ○近代前半におけるわが国の歴史の大きな流れを大観する。 ○近代前半の時代の特色について、課題意識をもって究明し、とらえることができる。	○近代前半の時代の大きな流れを、その特色とともにとらえ、概要を理解している。 ○「東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図」を、p.100～101の「江戸図屏風」と見比べて、人々や町の変化について読み取り、まとめている。	○「東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図」から、当時の人々や町の様子について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○明治時代の文明開化に関心を持ち、文明開化が当時の人々や社会にどのような影響を与えたのか、意欲的に調べようとしている。
	第1節 欧米諸国の進出と幕末の危機		○やがて列強として世界に君臨する欧米諸国が、強大な力をもつに至った経過を、市民革命と産業革命を通して理解する。 ○迫りくる外圧のなかで、近代化の必要に迫られたわが国が、明治維新を実現していく経緯をつかむ。	○地図や表・グラフなどの資料から、工業化・近代化していく欧米諸国の動向を読み取ったりまとめたりしている。 ○当時の国際情勢から鎖国の維持が困難であったことを踏まえ、わが国が近代国家となるためには政治体制を幕府から変える必要があったことを理解している。	○市民革命と産業革命の結果、近代国家となった欧米諸国が、わが国の鎖国体制を打破った経緯について、多面的・多角的に考察している。	○幕末史に関心を持ち、ペリーに代表される外国船の来航が倒幕の引き金になった理由について、意欲的に調べようとしている。
	43 欧米の市民革命・産業革命	1	○市民革命と産業革命を通して欧米諸国が近代国家をつくり上げていった経過を理解する。 ○市民革命のもととなった人権思想の内容について具体的事例と関連付けて理解する。	○欧米諸国における近代社会の成立について、様々な資料を活用して、市民革命と産業革命の両面から考え、その経過や意義を理解している。	○世界に対する欧米諸国の支配拡大の背景として、市民革命と産業革命がその原動力であったことについて考察している。	○欧米の市民革命と産業革命が近現代の社会に影響を及ぼしていることに関心を持ち、その具体的事例について、意欲的に調べようとしている。
	44 欧米列強のアジア進出	1	○イギリスのインド支配とアヘン戦争を例に、欧米列強が軍事力でアジア諸国を植民地化していった経緯について理解する。 ○欧米諸国とアジア諸国の経済力や軍事力の差がなぜ生まれたのか、前時の学習をもとに考察する。	○イギリスのインド支配とアヘン戦争を例に、欧米列強が軍事力を用いてアジア諸国を植民地化していった経緯について理解している。	○欧米諸国とアジア諸国の軍事力の差がなぜ生まれたのか、また、それがもたらした両者の立場の違いについて考察している。	○イギリスのインドと中国への進出を例に、欧米列強のアジア進出に関心を持ち、その問題点について、意欲的に調べようとしている。
	45 黒船来航の衝撃	1	○ペリーが来航した当時の国際情勢や、幕府の対応、外交政策の概要を理解する。 ○幕府が結んだ通商条約の内容と、開国が当時の社会や後の時代に及ぼした影響について、多面的・多角的な視点から考察する。	○資料などからペリーの来航が幕府に大きな衝撃を与えたことを読み取り、幕府の対応とそれにより結ばれた不平等条約の内容を理解している。	○当時のアジアの情勢（植民地化・アヘン戦争等）や欧米列強の動き（帝国主義）から、幕府の外交政策について自分なりの考えを整理し、表現している。	○黒船の来航が当時の社会や後の時代にどのような影響を与えたかについて関心を持ち、意欲的に調べて追究しようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4章 近代の日本と世界	46 尊王攘夷運動の高まり	1	○尊王攘夷運動が激しくなっていく理由を、国内の政治的、経済的な背景から考え、この運動が社会に与えた影響について多面的・多角的に考察する。 ○東アジアでの欧米諸国の動きを把握し、日本がとるべき外交上の選択肢について考察する。	○桜田門外の変が国内政治に与えた影響や欧米の強大な軍事力に対峙した薩長両藩の反応を、尊王攘夷運動の視点を重視した上で理解している。	○アジアにおける欧米列強の動きに対する外交上の問題や国内の対立等、当時の日本が抱えていた諸課題について自分の考えをまとめている。	○条約の締結や開国によって生じた政治的、経済的混乱に対し、幕府、朝廷、薩長両藩がどのような対処をしようとしたのかについて関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	47 倒幕と大政奉還、王政復古の大号令	1	○倒幕運動が高まっていった背景や 260 年あまりも続いた江戸幕府が減んだ直接的、間接的な理由について理解する。 ○倒幕運動において天皇の果たした役割について考える。	○大政奉還や王政復古の大号令に至る経過について、幕府、朝廷、薩藩藩や長州藩、土佐藩の動きとともに理解している。	○江戸幕府が減んだ原因を列挙するとともに、それらの因果関係について自分なりに整理し、説明している。	○倒幕の動きが広がっていった政治的な背景や社会状況に関心をもち、幕府の指導者や公武合体派、倒幕派の考えや動きについて、意欲的に調べようとしている。
	第2節 明治・日本の国づくり		○明治維新のあらましをつかむとともに、政府の諸政策が近代国家の礎となっていたことを理解する。	○明治政府の新しい国づくりの方針や具体的な施策について、様々な資料を活用して、その過程や結果を読み取ったりまとめたりしている。 ○わが国の人々の欧米列強に対する独立の意志が、近代国家の建設を推し進めたことを理解している。	○欧米列強の重圧が、わが国の政府に近代化を急がせたことを踏まえ、それぞれの改革の意義を説明できる。	○明治維新について地域に伝わる伝承や史跡に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	48 五箇条の御誓文と明治維新	1	○天皇を中心とする新しい政府が成立した経緯を把握するとともに、五箇条の御誓文に示された、新政府の方針について関心をもち、その内容を理解する。 ○新政府が、近代国家建設に向けて国内外にどのような問題を抱えていたかについて考える。	○戊辰戦争の経過を把握するとともに、新政府が抱えていた諸課題について理解している。 ○「五箇条の御誓文の発布のようす」「江戸城に入る天皇の行列」の絵や明治天皇の写真資料から、当時、天皇の果たした役割について読み取り、まとめている。	○諸外国との関係や反新政府勢力の存在などを視野に入れて、新政府がどのような問題意識をもって政策を進めていこうとしたかについて考え、要約している。	○幕末から新政府が樹立されるまでの政治や社会の動きに関心をもち、五箇条の御誓文の目的や新政府がめざした政治のあり方について、意欲的に調べようとしている。
	49 新しい国づくりへの道	1	○中央集権国家を建設するにあたって明治政府が進めた、廃藩置県などの政策について関心をもち、これらの目的や意義について理解する。 ○明治初期の諸改革が武士や庶民にどう受け止められたかについて考察する。	○欧米列強に対抗するために、明治新政府が近代的政治体制の確立・中央集権の強化を求めて、諸改革を断行していったことを理解している。 ○新政府の政治体制について、古代律令体制や江戸幕府の体制と比較するなど資料を活用し、その特色についてまとめている。	○版籍奉還や廃藩置県が大きな混乱もなく、平和的に進められていった理由について、当時の国内、国外の情勢から考え、表現している。	○明治初期に新政府が進めていった諸改革について関心をもち、それぞれの改革の目的や経過、影響について、意欲的に調べようとしている。
	50 学制・兵制・税制の改革	1	○明治政府が中央集権国家の建設に向けて進めていった諸改革を、学制・兵制・税制の三大改革の視点から整理し、その目的や役割や課題について理解する。 ○明治政府がめざした近代国家像について、東アジアや欧米の動きと関連付けて理解する。	○教育・軍事・税制の改革を進めた新政府の目的を理解するとともに、図表資料等から、改革の内容や経過を読み取っている。	○学制、兵制、税制の改革が当時の人々にどのように受け止められたのかについて、様々な視点や立場に立って、考えをまとめている。	○お雇い外国人を例に、明治政府が急いで近代国家建設を展開したことに関心をもち、当時の人々が、欧米諸国からどのような知識や技術を学んだかを調べようとしている。
	51 明治初期の外交と国境の画定	1	○近代国家の建設を進めていく上で、国家の領域を画定していくことの重要性を認識するとともに、明治政府が進めようとしていた外交政策や抱えていた外交問題について理解する。 ○欧米諸国の当時のアジア政策を踏まえた上で、日本の外交政策のあり方について考える。	○教科書の地図資料などを活用して、近隣諸国との国境画定の経過を、関係する条約・事件などとともに理解している。 ○日本の領域（国境）を画定することは、近代国家体制の確立にあたって、重要な課題であったことを理解している。	○征韓論ではどのような立場からどのような主張があったのか、また、論争の背景にはどのような外交、内政上の課題があったのかについて考え、適切に表現している。	○北方領土、竹島、尖閣諸島等、わが国固有の領土である国境の島々について関心をもち、近代国家における、国境、領土、主権の意味を調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4章 近代の日本と世界	52 岩倉使節団と西南戦争	2	○岩倉使節団が派遣された当時の欧米諸国の政治や経済、社会、文化等について関心をもち、明治政府がより一層の近代化を進めようとしたことを理解する。 ○岩倉使節団で派遣された政府首脳が、どのような感想を抱いたかについて考える。	○岩倉使節団の行動を地図などの資料から読み取り、使節団派遣が明治政府の近代化政策に与えた影響を理解している。 ○近代化推進に対する士族の不満と反発、それらへの明治政府の対応について、資料を活用して整理している。	○政府首脳が急速に近代化を進めようとした理由を、首脳たちが欧米を視察した経験や当時の日本の実状から考え、説明している。	○岩倉使節団が視察した欧米の様々な制度や政治体制、工業力や経済力等について関心をもち、欧米諸国がこのような近代化を成し遂げた背景について、意欲的に調べようとしている。
	53 殖産興業と文明開化	2	○明治政府が国の独立を保つために、富国強兵、殖産興業のローガンの下に様々な政策を進めていったことや、急速な改革がもたらした社会の変化のようすを理解する。 ○西洋の文物や諸制度が急速に広がり、国民の生活に大きな影響を与えたことに気付く。	○富国強兵、殖産興業のローガンの下で行われた政策の内容とその影響を、具体例と合わせて理解している。 ○図版資料から当時の文明開化のようすを読み取り、社会がどのように変化していったのかをまとめていく。	○政府主導の殖産興業政策による近代化の長所と問題点としてあげられることをノートにまとめ、話し合っている。	○明治初期に進められた西欧化（近代化）について関心をもち、人々の暮らしや習慣、社会制度がどう変化したのかについて、意欲的に調べようとしている。
	第3節 アジア最初の立憲国家・日本		○憲法の制定、議会の開設など近代化に大きく前進したわが国が、不平等条約の改正や対外戦争の勝利を通して列強の一員となっていくようすを理解する。	○教科書の様々な資料から、わが国が自由民権運動や戦争を経て、国際社会で生き残ろうと努力してきた歩みを読み取っている。 ○わが国の近代化の成功や対外戦争での勝利が、諸外国に与えた様々な影響について、多面的・多角的に理解している。	○国内の近代化や対外戦争の勝利を果たすことによって欧米列強との不平等条約の改正が成し遂げられた、という当時の時代状況について考察している。	○近代化と国力の充実を両輪として、わが国が国際的地位を確立していった努力に関心をもち、その経緯を意欲的に調べようとしている。
	54 国会開設へ向けて・自由民権運動	1	○五箇条の御誓文により、議会政治の確立をめざした政府・自由民権派それぞれの取り組みを理解する。	○自由民権運動の形成過程やその目標を理解するとともに、政府もまた立憲政治実現をめざし、双方が対立しながらも国会開設準備が進められていく過程を理解している。	○武力による反政府運動にかわり、言論による民権確立の動きが拡大した理由について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○近隣の地域で起こった自由民権運動に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	55 大日本帝国憲法の制定と帝国議会	1	○大日本帝国憲法の発布に至る経緯とその内容、および帝国議会の開設までの経緯を理解する。 ○大日本帝国憲法の制定と帝国議会の開設によって、日本の立憲政治が確立したことの歴史的意義を考察する。	○大日本帝国憲法発布に至る経緯とその内容、初期の議会政治の展開を理解している。 ○教育勅語の内容や公布された背景を理解している。	○大日本帝国憲法の制定や帝国議会の開設について、立憲政治確立といった歴史的意義の観点から考察し、考察の過程や結果を適切に表現している。	○大日本帝国憲法に関心をもち、制定過程や内容を意欲的に調べようとしている。
	56 不平等条約の改正への努力	1	○不平等条約の問題点とその改正に至る経緯について理解する。 ○条約改正が実現できた理由について、立憲政治の確立、産業の発達、軍備の増強、東アジア国際情勢の推移などとの関連で理解する。	○不平等条約の問題点を整理し、年表などの資料をもとに条約改正までの経過やそれに向けての日本側の努力、改正の意義について理解している。	○条約改正達成の理由について、立憲政治確立、産業発達、軍備増強、東アジア国際情勢などに関連させて考察し、考察の過程や結果を適切に表現している。	○不平等条約による日本の不利益に関心をもち、その内容を調べようとしている。
	57 朝鮮半島と日清戦争	1	○欧米列強の東アジア進出の動きを踏まえた上で、明治政府の対アジア外交政策について理解し、日清戦争が起こった理由やその背景について考える。 ○日清戦争の経過や戦後の日本と東アジアの関係、欧米の東アジアへの動きについて理解する。	○日清戦争前の国際情勢や国内の動き、戦争の直接の原因や経過、戦後の情勢等について、資料を活用しながら要点を理解している。	○日清戦争の原因（間接・直接）や経過、結果、諸外国に与えた影響について考え、文章や図を用いて表現している。	○19世紀末、欧米列強の東アジア政策と朝鮮をめぐる各国の動きに関心をもち、それぞれの国がとっていた政策について、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当授業時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4章 近代の日本と世界	58 ロシアとの激突・日露戦争	1	○日露戦争が起こった原因や経過、結果について、当時の東アジア情勢や欧米列強の動き、複雑な国際関係を背景にして追究し、理解する。 ○日露戦争の勝利によってわが国が獲得した権益の内容について理解する。	○当時の国際情勢の観点から日露戦争の原因を理解し、戦争の経過や結果について地図資料などをもとに整理している。	○政府がロシアとの戦争を決断した理由について、当時の国際情勢、日本が直面していた脅威も踏まえて考察し、適切に説明している。	○日露戦争が起こった時代の世界の動きに関心をもち、戦争の原因や結果について、多面的・多角的に追究しようとしている。
	59 国際的地位の向上と韓国併合	1	○日露戦争の勝利により、日本の国際的地位が向上し、アジア・アフリカの民族が独立への希望を抱いた一方で、欧米列強から警戒されるようになったことを理解する。 ○日本が韓国併合に踏み切った経緯を理解し、その後の東アジア情勢について考察する。	○日露戦争の結果が国内外に与えた影響を踏まえながら、韓国併合に至る経緯や日本の朝鮮統治の影響について、統計資料等を活用して理解している。	○日本が韓国併合を行った理由について、当時の東アジアの情勢や欧米の動き等も踏まえ、多面的・多角的に考察し、説明している。	○日露戦争後の東アジアの情勢や欧米の動きに関心をもち、韓国併合など、日本の外交政策について、意欲的に調べようとしている。
	第4節 近代産業の発展と近代文化の形成		○産業革命により重工業化が進展し、国際競争力を増す一方、公害などの歪みも生じたことを理解する。 ○欧米文化の流入に伴い、明治の文化が形成されていたことを理解する。	○様々な資料からわが国の産業発展のようすを読み取るとともに、明治の文化や学問を支えた人物についても読み取ったりまとめたりしている。 ○近代化の波が産業や文化の面でどのように押し寄せ、人々の生活を変えていったのか理解している。	○急速な近代化・欧米化の進展のなかで、わが国が発展した点、新たな問題を抱えた点などについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○明治の文化や産業の発達に関心をもち、この時代の郷土の文化人や実業家などについて、意欲的に調べようとしている。
	60 日本の産業革命と国民生活の変化	2	○わが国の産業革命が急速に進展し、それに伴って社会問題が生じてきたことを理解する。 ○殖産興業政策を引き継ぎ、民営による諸産業が発展した結果、わが国の近代産業が急速に発展していくようすについて考察し、具体的事例を用いて説明する。	○グラフなどの資料から、鉱工業生産量や綿糸貿易額が飛躍的に増大し、産業革命が進展したことを読み取っている。 ○産業革命により重工業化が進み、財閥も形成された一方で、労働問題や公害などの社会問題が発生したことを理解している。	○急速な産業や経済の発展の一方で、社会のなかには、ひずみが生じてきたことを考察している。	○日本の近代産業の発展に貢献した人物に関心をもち、日本の産業革命について、意欲的に調べようとしている。
	61 西洋文化と明治の文化	2	○近代的な教育制度が確立し、そのなかから世界的な活躍をする人材が輩出されたことを理解する。 ○西洋文化の刺激を受ける一方で、伝統的な文化も見直されていったことを、人物や作品をからめながら考察する。	○画像・表などの資料から、欧米文化の流入によってわが国の文化に大きな変化が生じたことを読み取り、様々な分野が発展したことを代表的人物や作品などと合わせて理解している。 ○近代教育の普及がわが国の学術の発展に大きく寄与したことを理解している。	○西洋文化の刺激を受け、文学・芸術の分野でも新しい潮流が生まれたこと、およびそのなかから世界的に評価される研究や作品が登場したことなどを考察している。	○明治時代の文化に関心をもち、野口英世や夏目漱石などの生き方や事績について、意欲的に調べようとしている。
	学習のまとめ④	1				

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章 二度の世界大戦と日本						
第5章 二度の世界大戦と日本	海洋国家・日本の歩み⑤（装備を取りつけている戦艦大和） 歴史絵巻～近代②～ 近代②の世界へようこそ！	2	<ul style="list-style-type: none"> ○戦艦大和がつくられた時代背景とその歴史の教訓について考える。 ○第一次世界大戦から第二次世界大戦終結までのわが国の歴史の大きな流れを大観する。 ○この時代の特色について、課題意識をもって究明し、とらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦から第二次世界大戦終結までのわが国の歴史の大きな流れを、その特色とともにとらえ、概要を理解している。 ○「東京名所東京停車場之図」を「東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図」（p.154～155）と見比べて、人々や町の変化について読み取り、p.209の写真の観察と合わせて、この時代の都市部の人々の生活のようすをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人々の生活の変化や大衆文化の発達について、多面的・多角的に考察し、その考察を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大正デモクラシーの時代ともよばれる大正・昭和初期の時代に関心をもち、当時の人々の生活様式や意識について、意欲的に調べようとしている。
	第1節 第一次世界大戦前後の日本と世界		<ul style="list-style-type: none"> ○大正時代のわが国のようす、およびその変容を大正デモクラシーの動きを中心として理解する。 ○第一次世界大戦の原因とその結果が世界に及ぼした影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な資料から、第一次世界大戦による被害の大きさやその反省から生じた世界の新しい動きを読み取っている。 ○大正時代の政治の動き、および文化の特色、社会の変化を国際情勢を踏まえて理解している。 ○普選運動などにより選挙権を得た人々が増加していったことについて、グラフや表などの資料から、その推移を読み取ったりまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際的な地位を固めたわが国が、同時に列強の一員としての責務を背負ったことについて考察している。 ○民族自決や共産主義が力を伸ばしていくなかで、わが国でも民主化への要望が高まっていったということを考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民主政治の成熟が促した世界情勢に関心をもち、わが国での影響について、意欲的に調べようとしている。
	62 第一次世界大戦	1	<ul style="list-style-type: none"> ○当時の国際情勢を背景にして、第一次世界大戦が起こった原因を理解する。 ○わが国の大戦中の動向を概観するとともに、中国とのあいだに利害の対立が生じたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大戦勃発前のヨーロッパ情勢を、地図などの資料から三国同盟と三国協商を軸にして読み取り、大戦勃発後については参戦国を改めて陣営別に整理している。 ○大戦に対してわが国がどのような行動をしたのかを、イギリスや中国との関係に注目して理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦が、当事国だけではなく、世界中に大きな影響を及ぼした理由について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦に関心をもち、戦争が起こった理由について、意欲的に調べようとしている。
	63 ロシア革命と第一次世界大戦の終結	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ロシア革命が起こった理由、およびその展開が共産主義勢力という新しい国際勢力の台頭につながったことを理解する。 ○第一次世界大戦を境として、それまで世界の中心的な位置を占めていたヨーロッパの地位が低下したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦の影響としてロシア革命が起こり、その展開や世界初の共産主義政権としてソビエトが成立したこと、欧米諸国や日本がソビエトを強く警戒したことを理解している。 ○第一次世界大戦が史上最大の戦争被害を出して終結し、ヨーロッパの荒廃とアメリカの台頭をもたらしたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ソ連という共産主義国家が出現したことにより、日本がどのような対応を迫られたのかを考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロシア革命に関心をもち、その背景や経緯について、意欲的に調べようとしている。
	64 ベルサイユ条約と国際協調の動き	1	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦の処理をめぐり、ドイツに過重な負担がかけられたことを理解する。 ○戦後の国際的指針となった民族自決の原則が世界に与えた影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦の戦後処理の内容や、大戦の反省から平和を維持するために国際連盟が設立されたことを理解している。 ○アジアの民族独立の運動が、各地域でどのように展開されたか、地域・運動別に整理して理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次世界大戦の甚大な被害が、ベルサイユ条約によるドイツ封じ込めや国際連盟設立につながった経緯について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際連盟について関心をもち、設立の背景や意義について、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章 二度の世界大戦と日本	65 大正デモクラシーと政党政治	1	○世界的な民主主義の潮流のなかで、大正デモクラシーが起こり、わが国の民主化を推進したことを理解する。 ○大正デモクラシーが普通選挙法を促し政党政治を定着させたことを理解する。	○グラフなどの資料から大正デモクラシーにより選挙権が拡大していったことを読み取り、政党政治が進展したことを理解している。 ○労働問題や差別撤廃など社会運動が活発化したことと合わせて、政府が共産主義への対策として治安維持法を制定したことを理解している。	○大戦の勝利や大戦景気といった時代の風潮が、大正デモクラシーの動きに結び付いていったことを考察している。	○第一次世界大戦後の日本の動向に関心をもち、政治・経済・社会がどのように変化したか、意欲的に調べようとしている。
	66 ワシントン会議と日米関係	1	○列強による軍事的なかけひきが行われるなかで、孤立を深めていったわが国の立場を理解する。 ○関東大震災の被害およびその影響について理解する。	○表などの資料から各軍縮会議で決められた軍縮内容を整理し、わが国がこれらの取り決めに従い国際協調を重視していたことを理解している。 ○日英同盟の廃止など外交関係の変化によって、日本の外交に不安要素が生じていたことを理解している。	○列強のあいだで軍縮が進められた理由、および軍縮がわが国に与えた影響について考察している。	○関東大震災に関心をもち、その被害や復興のようすについて、意欲的に調べようとしている。
	67 文化の大衆化・大正の文化	1	○大正時代の文化の特色を、都市化、大衆化の動向を踏まえて理解する。 ○この時代の文化の多くが、現代まで伝えられていることを理解する。	○大正時代の文化の様々な資料から、都市を中心とした文化として社会の変化との関連性にも注目しながら、代表的な人物や作品を整理しつつ文化の特色を理解している。	○都市生活者にとって当時どのような娯楽があったのか、都市化の進展や技術の進歩などの要因とともに考察している。	○大正時代の文化に関心をもち、現代の文化との共通点や相違点などについて、意欲的に調べようとしている。
	第2節 第二次世界大戦終結までの日本と世界		○世界恐慌から敗戦までの流れを国内の政治の動きと世界情勢の変化を踏まえて理解する。 ○日中関係、日米関係を中心に戦争に踏み切ったわが国と相手国の立場、および戦争が周辺諸国に与えた影響について理解する。	○日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争（大東亜戦争）に関する様々な資料から、世界各地で起こった紛争が、史上最大の戦争につながっていったことを読み取っている。 ○世界恐慌に際して大陸への進出を拡大しようとするわが国の動きに対し、米・中・ソなど各国がどのように反応したか理解している。	○国際協調体制が、恐慌によって一挙に崩れ、ファシズムを生み出した経緯について考察している。 ○わが国の進路をめぐる、政治家と軍部のあいだにどのような対立があり、その関係がどのように変化したのかを考察している。	○戦争の原因やその過程、被害の状況に関心をもち、戦争がどのようにして起こったのかについて、意欲的に調べようとしている。
	68 世界恐慌と協調外交の行きづまり	1	○世界恐慌がアメリカから起こり全世界に波及した理由を理解する。 ○世界恐慌から自国の経済を守ろうとする各国の動きにより、国際協調は行きづまっていくことを理解する。	○グラフ・地図などの資料から、世界恐慌による各国の経済的苦境を読み取るとともに、恐慌の原因や影響、わが国の恐慌への対応について理解している。	○世界恐慌がなぜ起こり、世界に広がっていったのかという原因を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○世界恐慌に関心をもち、各国がどのように対処したかについて、意欲的に調べようとしている。
	69 共産主義とファシズムの台頭	1	○恐慌への対策がファシズムの動きにつながり、共産主義とともに二つの全体主義を形づくっていったことを理解する。	○世界恐慌を背景として各国で全体主義の傾向が強くなっていくようすを、画像・地図などの資料を活用して理解している。	○共産主義やファシズムといった全体主義が恐慌への対応に有効であった理由について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○共産主義とファシズムに対する関心をもち、スターリンがどのように権力を強化したのか、またヒトラーがどのように権力の座に就いたのか、などについて意欲的に調べようとしている。
	70 中国の排日運動と満州事変	1	○中国の国内統一の進展と、それに対するわが国の対応について、日中双方の視点から理解する。 ○満州権益をめぐる、日中間で摩擦が生じ、それが日本軍の行動につながった経緯を、日中双方の事情を踏まえて理解する。	○地図・画像などの資料から、関東軍が満州事変を起こした原因や事変の経過を整理して理解しているとともに、政府と軍部の摩擦が国内のテロにつながったことを理解している。	○わが国と国内統一に進んでいた中国との利害が満州において衝突した理由について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○満州に関心をもち、日中両国にとってこの地が軍事的・経済的にどのような意味をもっていたかについて、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章 二度の世界大戦と日本	71 日中戦争（支那事変）	1	○日中戦争が勃発し拡大した理由を、日中双方の政治的背景や国際情勢を踏まえて、理解する。 ○二・二六事件を経て、軍部が政府に対し強い圧力をかけるようになっていった経緯を理解する。	○国外の武力衝突や国内のテロ事件を手がかりに軍部が政治的発言力を強めていったことを理解している。 ○日中対立に関する資料から、盧溝橋事件から日中戦争が始まって拡大していった経緯を読み取り、その戦争が長期化していったことを理解している。	○日中戦争が拡大・長期化した理由について、日中双方の視点で考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○二・二六事件に関心を持ち、なぜ事件が起きたのかについて、その社会的背景も含めて、意欲的に調べようとしている。
	72 緊迫する日米関係	1	○日中戦争の長期化に対して、日本政府が戦時総力戦体制の構築を推し進めていったことを理解する。 ○対米関係が悪化していった理由を、国際情勢を踏まえたうえで理解する。	○戦時下の政治・生活に関する資料から、日本が戦時体制を強めた経過を読み取っている。 ○日米関係について、日中戦争の長期化が原因となって関係が悪化していった経緯を理解している。	○日米関係の推移を双方の立場から考察し、背景・過程・結果を適切に表現している。	○戦時下の経済や社会に関心を持ち、どのように戦時統制が強まっていったのかについて、意欲的に調べようとしている。
	73 第二次世界大戦	1	○ヨーロッパでの第二次世界大戦勃発に至る経緯とその展開について理解する。 ○日米交渉が行きづまっていった理由を、大戦の経過を踏まえて理解する。	○第二次世界大戦の展開を背景として日独伊三国同盟の成立を理解するとともに、日米交渉が難航した理由を、日米双方の視点から理解している。	○ドイツが勢力を拡大して第二次世界大戦を起こし、快進撃を続けた理由を考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○アンネ・フランクに関心を持ち、ナチスのユダヤ人迫害について意欲的に調べようとしている。
	74 太平洋戦争（大東亜戦争）	1	○太平洋戦争（大東亜戦争）が起こった原因および戦争の経過について理解する。	○日本が開戦を決断するまでの経緯について日米両国の意図を踏まえて理解するとともに、開戦後の戦争の展開について地図などの資料を活用して整理している。	○太平洋戦争開戦と戦局悪化の要因について考察し、考察の過程や結果を適切に表現している。	○日本の真珠湾攻撃に関心を持ち、そこに至るまでの経緯と太平洋戦争の展開について、意欲的に調べようとしている。
	75 日本軍の進出とアジア諸国	1	○欧米に植民地支配されていたアジア諸地域が、この戦争にどのように反応したかを理解する。 ○日本の統治が、統治されたアジア諸地域に及ぼした影響について理解する。	○戦争中の日本とアジア諸国の関係について、様々な資料を収集し、適切に選択してその過程や結果をまとめている。 ○日本軍の進出がアジア諸国にどのような影響を及ぼしたのか理解している。	○大東亜会議について、日本と参加した国々の相互の利害関係を踏まえて、その意義を考察している。	○戦時下のアジア諸地域の動きに関心を持ち、日本との関係がどのようなものだったのか、意欲的に調べている。
	76 戦時下の暮らし	1	○国家総動員体制により戦争一色となった国民生活のようすを通し、当時の人々の苦労や不安を理解する。 ○空襲による被害や沖縄での激しい地上戦のようすなどから、戦争の悲惨な実態を理解する。	○戦時下で厳しくなる国民の生活のようすを通して、この戦争が国家と国民を総動員する総力戦であったことを理解している。 ○日本全土への空襲や沖縄戦など国民が直接戦闘に巻き込まれていく状況を、被害の大きさとともに理解している。	○国民生活が窮乏して自由が失われるなど、厳しさを増していく状況について考察している。	○戦争中の国民生活に関心を持ち、当時のようすを展示した資料館の見学や戦争体験者の話を聞くなど、意欲的に調べようとしている。
	77 戦争の終結	2	○第二次世界大戦の終結のようすをヨーロッパとアジアのそれぞれについて理解する。 ○戦争に敗れたわが国が直面した多くの困難について理解する。	○連合軍の攻勢を受けて日本が降伏に追い込まれていく過程を、降伏勧告であるポツダム宣言の内容と合わせて理解している。 ○この戦争でわが国が総計 300 万以上の死者を出したことを理解している。	○原爆投下とソ連対日参戦の理由を考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○米軍の広島・長崎への原爆投下に関心を持ち、被害の内容について、統計資料だけでなく被爆者の体験記などを通して、意欲的に調べようとしている。
	学習のまとめ⑤	1				

章	主な学習内容	配当 授業 時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第6章 現代の日本と世界						
第6章 現代の日本と世界	海洋国家・日本の歩み⑥（世界一のタンカー・日章丸3世） 歴史絵巻～現代～ 現代の世界へようこそ！	2	○現代において、タンカーや大型客船など大型船舶が担っている役割について考察する。 ○第二次世界大戦終結後のわが国の歴史の大きな流れを大観する。 ○この時代の特色について、課題意識をもって究明し、とらえることができる。	○第二次世界大戦終結後のわが国の歴史の大きな流れを、その特色とともにとらえ、概要を理解している。 ○わが国の戦後復興に関する様々な資料を調べ、適切な情報を選択して復興の過程をまとめている。	○戦後の歴史において、新幹線が果たした役割について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○東京オリンピックに関心をもち、その歴史的な意義や結果などについて、意欲的に調べようとしている。
	第1節 第二次世界大戦後の占領と再建		○戦後の日本の体制を決定付けたGHQの占領政策について理解する。 ○激化する冷戦のなかで、わが国が西側陣営の一員となった経緯を理解する。	○写真やコラムなどの資料から、第二次世界大戦後の世界がアメリカとソ連を中心とする東西両陣営の対立へと推移していったことを読み取っている。 ○冷戦の発生とその激化について把握するとともに、わが国の進路が占領政策と冷戦の進行によって大きな影響を受けたことを理解している。	○国際情勢の変化により、占領政策の方針が転換した結果、わが国の独立回復が早まり、西側陣営に加わることとなったという当時の時代状況について考察している。	○憲法改正の経過に関心をもち、GHQの占領政策の目的を踏まえ、新憲法が制定された経緯について、意欲的に調べようとしている。
	78 占領下の日本と日本国憲法	1	○敗戦後、GHQによる占領政策の下、どのような改革が行われたのか理解する。 ○日本国憲法が制定された経緯とその特色について理解する。	○GHQによる占領の下で様々な改革や政策が行われ、その一環として東京裁判の実施や日本国憲法の制定が行われたことを理解している。 ○日本国憲法の特色について、三大原則を中心に整理して理解している。	○戦後の諸改革をノートにまとめ、現代の日本の骨組みが形成された過程について考察している。	○GHQの占領政策が日本の社会や文化に与えた影響について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	79 朝鮮戦争と日本の独立回復	1	○冷戦がなぜ始まり、どのように激化していったのかを理解する。 ○占領政策の転換により、わが国が西側陣営の一員として独立を回復したこと、および国際連合に加盟し国際社会に復帰したことを理解する。	○冷戦における東西両陣営の対立の状況を、朝鮮戦争など軍事衝突事例とともに、地図などの資料を活用して地理的に理解している。 ○冷戦が激化するなかで、わが国が経済復興を進めて国連加盟を果たすなど国際政治に復帰した経緯を理解している。	○冷戦に伴う占領政策の変化が、わが国の独立回復や国際連合加盟につながっていったという当時の時代状況について考察している。	○冷戦の実態に関心をもち、その対立によって世界と日本がどのように変わっていったのか、意欲的に調べようとしている。
	80 冷戦と日本	1	○核戦争の危機をはらみながら、米ソを中心とした核開発競争が進んでいったことを理解するとともに、冷戦の推移を把握する。 ○冷戦が世界や日本に与えた影響について考察する。	○冷戦が進行して核兵器を保有する米ソの対立が続くなかで、ベトナム戦争などの代理戦争や摩擦が各地で発生していたことを整理して理解している。 ○わが国の経済が戦前以上の水準になるなど、戦後という状態から抜け出したことを理解している。	○冷戦の進行を背景に、世界情勢がどのように変化し、わが国がどのような影響を受けたのかについて考察している。	○核戦争の危機について関心をもち、キューバ危機など具体的事件の経緯を意欲的に調べようとしている。
	第2節 経済大国・日本の国際的役割		○高度経済成長時代から平成に至るわが国の歩みを、国際社会の動向を踏まえて理解する。	○高度経済成長期以降のわが国の足取りの概要や、わが国が国際社会のなかで果たすべき役割を理解している。 ○教科書の様々な資料などから、現代のわが国が抱えている国内外の課題を読み取ったりまとめたりしている。	○冷戦・公害・石油危機など、わが国が多くの問題に直面し、これらをどのように乗り越えてきたのか、その過程について考察している。	○戦後のわが国の歩みや社会の変化に関心をもち、家族や地域の人々への聞き取りを行うなど、意欲的に調べようとしている。

章	主な学習内容	配当授業時数	学習のねらい	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第6章 現代の日本と世界	81 世界の奇跡・高度経済成長	1	○世界の奇跡といわれた高度経済成長を通して、国民の生活が向上したようすを概観する。 ○高度経済成長の負の遺産である公害とその克服の歴史などを通して、先人の苦勞について考察する。	○グラフ・写真などの資料から、高度経済成長時代の国民生活の変化を読み取るとともに、高度経済成長のプラス面とマイナス面について整理して理解している。	○高度経済成長の負の遺産である公害の原因や被害、またその対策について考察している。	○わが国の高度経済成長に関心を持ち、この時代の生活のようすなどを意欲的に調べようとしている。
	82 冷戦と昭和時代の終わり	2	○1960年代から70年代にかけてのわが国と国際社会との動向について理解する。 ○冷戦という世界規模での対立が終わったことの意味について考察する。	○石油危機から昭和の終わりにかけてのわが国と世界の動きについて、冷戦終結を中心に理解している。	○冷戦が東側諸国の政権崩壊によって終わった理由について、社会体制の違いなどとともに考察している。	○石油危機や冷戦について関心を持ち、聞き取りを行うなど、意欲的に調べようとしている。
	83 戦後と現代の日本文化	1	○戦後の文化の特色について概観する。 ○世界に影響を与えている現代の日本文化の特色について考察する。	○戦後の文化について、代表的な人物や作品などを整理するとともに、現代につながる文化としてその概要や特色を理解している。	○わが国が世界に発信している文化について、その社会的背景を踏まえて考察している。	○戦後と現代の文化について関心を持ち、聞き取りや体験を通して、意欲的に調べようとしている。
	84 地域紛争とグローバル化	1	○冷戦後の世界で生じた地域紛争など様々な問題について、その経緯や影響、問題に対する国際社会の取り組みを理解する。 ○現在の世界が抱える問題に対し、わが国がどのように取り組むべきか、考える。	○写真・地図・グラフなどの資料から冷戦後の世界の動きを整理するとともに、現在の世界でどのような問題が起きているのか、政治、経済、環境など各分野の視点をもって理解している。	○地域紛争など冷戦後の世界で発生した諸問題について、原因・影響などを多面的・多角的に考察している。	○現在の国際社会が抱える諸問題について関心を持ち、新聞などの資料も用いて、意欲的に調べようとしている。
	85 日本の現状とこれから	1	○現代日本で発生した事件や問題について、その経緯や影響を理解する。 ○これからの世界において、わが国がどのような役割を果たしていけるのかについて考える。	○現在のわが国が国内国外で直面している諸問題について、写真・グラフなどの資料を活用してその概要を整理するとともに、わが国のそれらに対する動きを理解している。	○山積する国内の問題や、これからの世界でわが国が果たすべき役割について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○現在の日本の状況と問題となっている事象に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
	学習のまとめ⑥	1				
	【課題学習】歴史新聞をつくらう/歴史のロールプレイをしてみよう 日本の歴史を大観する 歴史の旅の終わりに	8	○身近な地域の歴史を調べ、歴史新聞にまとめるなどして、表現力を養う。 ○学習した内容を活用してわが国の歴史を大観し、表現する活動を通して各時代および日本の歴史の特色をとらえる。 ○歴史的分野の学習を終えるに当たって、わが国の歴史の大きな流れを振り返り、広い視野に立ってわが国の伝統と文化の特色を考え、社会の一員としての自覚に立って明るい未来の創造に意欲を高める。	○教科書の資料を参考にしながら、身近な地域の歴史新聞をつくらうことができる。 ○「歴史絵巻」や「人物コラム」「なでしこ日本史」などを活用して、「日本の歴史“10大事件”」「日本の歴史で重要な役割を果たした人物ベスト10」についてまとめている。 ○「日本の歴史を学んで」というテーマで400字程度の文章を作成し、歴史を自分の言葉で表現することにより、言語能力を高めるとともに、歴史学習の理解を深めている。	○エルトゥールル号事件とトルコ航空機による日本人救出のエピソードなどから、日本とトルコの二国間関係について考察している。 ○歴史の大きな流れについて、「歴史絵巻」を活用して、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○エルトゥールル号事件について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ○これまでに学習した内容について、意欲的に教科書を読み直し、定着を図ろうとしている。
		135				

※配当時間には、各章冒頭の「海洋国家・日本の歩み」「歴史絵巻」「〇〇の世界へようこそ！」を指導する時間、各章中の「このころ世界は」を指導する時間、各章末の「学習のまとめ」を指導する時間などが含まれています。1～85の見開きでの各授業のテーマを中心として、弾力的に運用してください。